



錬心

第6号
那覇市立
石嶺中学校
校長 仲嶺香代

青春一歩！錬心祭

生徒が見事に企画運営力を発揮

二日間にわたって行われた第2回錬心祭は、今年度のリーダー研修会でその企画が始まり、すべて生徒の手によるプログラムとなつています。オープニングからエンディングまで、コンセプトをもとにストーリー性を持たせた構成になっており、生徒の創造力、企画運営力が存分に発揮された学校行事となりました。私たち石嶺中職員も、錬心島の先住民となつて登場することとなり、ある日校長室には



みんなで校歌斉唱！

「校長先生、族長になってください！台詞がありますか？」と生徒が直接お願いにきていました。校長まで自分たちのストーリーに使うてしまう嶺中生の自由でたくましい創造力や機動力には感心させられます。団長を中心に練習した海賊たちの宴のダンスは素晴らしく、生き生きとした表情が印象的で、財宝ダッシュ！のラリーの全力疾走は、まさに青春一歩にふさわしい感動がありました。

一学期終業式式辞
校長 仲嶺 香代

予測困難な社会をたくましく生き抜く、「錬心」を持つた生徒を育てようと、石嶺中学校では様々な取り組みを行った一学期が終わろうとしています。四月から今まで、皆さんはどれくらいたくましく成長したでしょうか。

知らない間に身長がぐっと伸びた人、生徒会や学級役員、団活動で仲間と共に頑張った人、部活動でレギュラーメンバーに選ばれようと努力した人、資格取得に挑戦している人、総合の探究活動に熱心に取り組んでいる人、陸上や駅伝の練習に励んでいる人、受験に向けてコツコツと勉強している人、小さな一歩かもしれないけれど、少しでも登校しようと頑張った人。

一学期も、そのような皆さんの姿を、校長先生始め、先生方はたくさん見ることができました。どんなところに、皆さん一人ひとりの成長があるのか、また、それを皆さんが実感できるかどうかは人それぞれです。

見方を変えて、生物学的に言うと、私たちヒトの細胞は約六十兆個あって、一日で一兆個の細胞が入れ替わって

いるそうです。そう考えると、昨日の自分と今日の自分は、まったく同じではないということになりますね。成長を実感できるということは、日々「私はここで生きている」と、実感することなのかもしれません。

今日という節目に、校長先生から皆さんに伝えたい「錬心の心」は、「自分の可能性を信じる心」です。

石嶺中学校では、前期と後期に一回ずつ、学校評価というアンケートをとっています。その中のひとつに「私にはよいところがあり、やればできると思う」という項目があります。「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に答えた生徒が八四、六％、逆に、そうではないと答えた生徒が一五、四％でした。

これから皆さんは、直近では高校入試の面接、その後は大学受験、就職試験や企業面接で、多くの場合「あなたの長所は何ですか？」「得意なことは何ですか？」と聞かれる場面が訪れるでしょう。さらに、自分は「やればできる」と様々なことに挑戦する機会も訪れることでしょう。自分自身の可能性を信じていなければ、それらの「問い」に、力強く答えたり、チャレンジしたりすることはできないと思います。

このあと、学級では一学期の通知表が、担任の先生から手渡されると思います。それを見た皆さんが、これからの自分の可能性を信じて行動するのか、どうせ自分とは思ってあきらめるのかでは、まったく未来の結果が違ってくると思いませんか。

生徒主体の学校行事「錬心祭」では、「青春一歩」のテーマのもと、頑張つて駆け抜けた学級対抗ラリー、団長の皆さんと練習した団アピールのダンス、自分なりの得意なことで開設したショップ、みんなで歌ったアカペラの校歌、そして空に飛ばした風船、あの時の皆さんの表情を見ながら、嶺中生の可能性は無限大だと校長先生はとてとても感動しました。

昨日より今日、今日より明日、まだ見ぬ自分がそこにあります。皆さん一人一人が、自分の可能性を信じて、「一学期頑張ったね 私」「二期はぜひこれを頑張ろう！」と、自分で自分に決められる皆さんであつてほしいと思います。

最後になりますが、二学期始業式には全校生徒が元氣よく笑顔で登校し、再びここで会えることを心から願います。一学期終業式の式辞とします。